

MR I における造影剤投与に関する同意書

- 1、造影剤とは何か？
- 2、造影剤を使用する目的は？
- 3、造影剤の副作用について
 - 1) 副作用の頻度・症状
 - 2) 副作用の危険因子
 - 3) 副作用の現れる時期
- 4、副作用の現れた場合の対応について

ID番号
氏名
生年月日
性別
診療科
依頼医師名

該当する項目に印をつけてください。

- 1、今まで造影剤を用いた検査を受けたことがありますか。

いいえ はい(CT検査・MRI検査・腎臓検査・血管造影検査)

はいと答えられた方へ

そのとき副作用を経験されましたか。

いいえ はい(じんま疹・吐き気・嘔吐) その他 ()

- 2、薬や食べ物でアレルギーが出たことがありますか。

いいえ はい(内容 :)

- 3、今まで喘息、腎臓が悪い、甲状腺疾患といわれたことがありますか。

いいえ はい(喘息・腎疾患・甲状腺疾患)

- 4、腎機能障害があるときは、原則として造影検査は受けられません。下記の項目にご記入下さい。

クレアチニン mg/dl

検査日時 年 月 日 時 分

上記の説明を受け、造影剤の投与を受けることに同意します。

牛久愛和総合病院 殿

年 月 日

患者氏名(本人が未成年又は署名できない場合は保護者又は代理人にご記入ください)

(続柄 :)

診療科

主治医氏名

MR I 検査における造影剤投与に関する説明書

MR I 検査当日に、ガドリニウム系造影剤という検査薬を使用して検査を行います。あらかじめこの説明書をお読みになって、ご不明な点は主治医に質問していただき、納得されましたら同意書に署名して下さい。

1、造影剤とは何ですか？

MR I 検査において、血流の豊富な部分を高濃度に（白く表現）して情報量を増やすための薬です。MR I 検査では、非イオン性低浸透圧のMR I 用造影剤が用いられ、通常は静脈内に投与します。腎機能が正常であれば、通常2時間以内に約60%が尿中に排泄され、24時間後には約80%以上が尿中に排泄されます。

2、造影剤を使用する目的は何ですか？

注入された造影剤は、血流の流れによって全身の血管や臓器に分布します。これにより、血管の様子、臓器の血流、病変の性質などが分かりやすくなり、診断するための重要な情報が新たに得られます。

3、造影剤の副作用について

- 1) 副作用の頻度・症状：造影剤によるアレルギー反応（直後～数日後）や血管反射による副作用・合併症としては、発疹、咽頭・喉頭違和感、くしゃみ、咳、悪心、嘔吐といった軽度のものから呼吸困難、ショック（約2400人に1人）、心停止（約5万人に1人）、死亡（約50万人に1人）といった重篤なものまであります。
- 2) 副作用の危険因子：アレルギー体質の方は副作用が現れる可能性が約3倍高く、中でも喘息の方は10倍高いと言われ、喘息の方には原則的に造影剤は投与できません。また、造影剤は腎臓から排泄されるため、腎機能の悪い方はさらに悪化させることがありますので、主治医にご相談下さい。
- 3) 副作用の時期：造影剤投与後30分以内に現れるものが多く、即時型副作用と呼ばれます。1時間以上経過してから数日までの間に、かゆみ、じんま疹。全身倦怠感などが現れることがあり、遅発性副作用と呼びます。

4、副作用が現れた場合の対応について

造影検査中は、放射線技師・看護師が常に観察しており、何か異常が現れた場合は造影を中止し、点滴や必要な薬品を投与し、最善の対処を致します。また、まれにですが、造影剤を注入した時に血管外に造影剤が漏れる場合があります。この場合、注入部位が痛みを伴って腫れたり青く変色したりすることがありますが、少量の造影剤であれば自然に消滅します。大量の造影剤が皮下に漏れた場合は処置が必要となる場合があります。

帰宅後に副作用と思われる症状が現れた場合や、手のしびれ、注入部位の強い痛みが続くようなことがあれば、下記連絡先へお電話下さい。

以上の説明に納得していただけたら、同意書にご署名をお願い致します。